

8月



隅田川と東京スカイツリー



隅田公園



あの日のあの川 リレー日記 ～第7話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第7話主人公 中原 結衣

(筑波大学理工学群工学システム学類4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)
(出身地を流れる川：東京都隅田川)

「隅田川の思い出」

いつのこと？：小学生時代
どこの川？：隅田川

(次は佐藤達裕さんにバトンを託します)

小学校1年生のとき、私は家族とともに浅草へ引っ越してきた。浅草に住む母の祖父と祖母、私にとっては“ひいおじいちゃん”と“ひいおばあちゃん”が90歳を過ぎ、「まだまだ二人とも元気になっているけどやっぱり心配だから、みんなで近くに住もう」というのが理由だった。

特にひいおじいちゃんは、小さかった私と弟にいろんな話をしてくれた。昔の浅草のこと、関東大震災のこと、戦争のこと。その中には、街のすぐ横を流れる隅田川の話もあった。

「おじいちゃんが子供の頃は、隅田川は屋形船やレガッタでにぎやかだったよ。魚が泳いでいて、水も綺麗だった」

隅田川は、ひいおじいちゃんが子供のときもあったのか！という驚きと(今思えばすごく当たり前のことだが)、自分の目で見る現在の川の姿との違いに、子供ながらに興味深かったことを覚えている。

ひいおじいちゃんから一つ世代を進め、私の祖母に話を聞いてみると、あまり川に対していい思い出はないようである。祖母が子供だったのはちょうど、戦後から高度経済成長を経て、都市河川の環境が最悪だった頃で、隅田川からはいつも悪臭がし、川沿いにあった旅館などは臭いのせいで窓が開けられず、全て立ち退いてしまったそうだ。犬や猫の死骸も浮いていたという。

私自身も、小さい頃はあまり隅田川が好きではなかった。その頃よりはだいぶ水質も改善され、悪臭もしなかったが、なんとなく祖母の話を思い出して、汚い川のような気がしていた。

その印象を決定づけた思い出として、ある日小学校で配られた『すみだがわのいきもの』というパンフレットがある。小学生の頃の私は、当時話題になっていた“多摩川のたまちゃん”というアザラシを思い出しながら、わくわくした気持ちでそのパンフレットを開いたのだが、隅田川の生き物として紹介されていたのは、なんだかニョロニョロして足がたくさんあるものや、濁った色のクラゲなどだった。完全に期待を裏切られた私は、一瞬でそのパンフレットを閉じた。

中学生、高校生になると、通っていた学校が家から遠く地元にいる時間が少なくなったこともあり、隅田川へ意識を向けること自体が少なくなった。隅田川への印象が変わる出来事があったのは、大学2年生の時である。『隅田川で屋形船に乗って川柳を詠む』という地元の小学生対象のイベントをお手伝いしたときに、船から間近に川を見て、陽の光を反射しキラキラと輝いている様子を素直に「きれいだな」と思った。また、その時久しぶりに、ひいおじいちゃんの話を出し、ひいおじいちゃんが子供の頃にもあった隅田川の屋形船に、今自分も乗っているのだと考えると、なんだか不思議な気分がした。

そして今回、川の思い出を書く機会を与えてもらい思い返してみると、私の幼少期の思い出の中かなりの割合で隅田川が出てくることに気付いた。小学校1年生の夏休みに、麦わら帽子をかぶって川沿いの道を自転車で走り毎日プールへ行ったこと。お父さんとキャッチボールをしたこと。珍しく雪が積もった日の朝、弟と隅田公園で小さな雪だるまを作ったこと。花火大会やお花見。川沿いにある隅田公園のアスレチックは、一周出来るようになっていて、小学生の頃は日が暮れるまで何周でもぐるぐると遊び続けた。あの当時は隅田川があまり好きではなかったはずなのに、楽しかった思い出の中には川の風景が当たり前のように残っている。

小学生の時は、ひいおじいちゃんが子供の時なんてすごく昔だなと感じたが、実際にはそれよりも何百年も前から川は流れ続けていて、その間に周辺の街並みや人は変化し続けている。そしてその時代ごとに、人それぞれ違った川への思い出があるのかもしれない。

2012年に東京スカイツリーが完成したことで河川敷などが再開発され、隅田川の周辺は私が小学生だった頃と比べてもさらに変化している。現在小学2年生の従妹は、スカイツリーまで遊びに行くときに、よく橋の上で立ち止まって川を眺めているが、今度従妹にも、昔ひいおじいちゃんから聞いた隅田川の話をしてみようと思う。

